

指導と評価の計画（全4時間）

| 過程 | □ねらい ○主な学習活動 | 時間 | 学習への支援 | 評価規準 | | |
|------|--|----|--|--|---|---|
| | | | | 国語への関心・意欲・態度 | 書く能力 | 言語についての知識・理解・技能 |
| | <p>□文をつなげて物語を作ることで、センテンス・カードを使うと、筋道の通った文章をこれまでよりも容易に書けることに気付けるようにする。</p> <p>○班になって、順番をばらばらにした絵本の一場面から文を作り、その順番を考えたり、言葉や文を追加したりしながら、一つの物語を作る。</p> | 1 | <p>○絵から一文をどう作ればよいか分かるように、作り方の例を示した資料を用意しておく。</p> <p>○文を挿入する場合は、そのことが後で分かるように異なる色のセンテンス・カードを用意し、記入できるようにする。</p> | <p>◇センテンス・カードを使って話をつなげていけば、筋道の通った文章にしていくことは簡単にできるということに気が付いている。（観察、発言、自己評価）</p> <p>(十分満足とする状況・態度)</p> <p>○物語だけでなく相手に納得してもらうような文章の場合にも、センテンス・カードを使って考えていこうという意欲をもっている。</p> <p>(努力を要する状況への方策)</p> <p>○筋道の通った文章にできたことに気付けない場合は、最初はそれぞれ関連がなかった文同士だったことを振り返ってみるように話す。</p> | <p>◇筋道が通るように表現を直したり、言葉や文を付け加えたりしている。（班での話し合いの様子を観察、発表、ワークシート）</p> <p>(十分満足とする状況)</p> <p>○より効果的な表現を考え、選択して表現を直したり、言葉や文を付け加えたりしている。</p> <p>(努力を要する状況への方策)</p> <p>○筋道が通るように文同士がつながっているか、声に出して読んでみたり、読んでもらったものを聞いてみるように助言する。</p> | <p>◇主語と述語、修飾語と被修飾語の照応や接続語の働きを理解して文を作っている。（班での話し合いの様子を観察、発表、ワークシート）</p> <p>(十分満足とする状況)</p> <p>○主語と述語、修飾語と被修飾語の照応や接続語の働きを理解し、表現の工夫にいかしている。</p> <p>(努力を要する状況への方策)</p> <p>○まず述語・述部から主語や修飾の関係について考えていくように助言し、T Tによって個別に支援する。</p> |
| | <p>□条件を設定することによって、相手や目的を意識したセンテンス・カードを作ることができるようになる。</p> <p>○課題を読み、構想メモをヒントにセンテンス・カードを作る。</p> | 1 | <p>○自分の力に合わせて取り組めるように、ヒントとなる構想メモのプリントを複数用意する。</p> <p>○それぞれの文が段落の中でどのような役割なのか分かりやすいように、2色の付箋を配布しておき、書き分けられるようにする。</p> | <p>◇センテンス・カードに課題に合った文を書こうとしている。（観察、自己評価カードの分析）</p> <p>(十分満足とする状況・態度)</p> <p>○課題に挙げられた条件以外についても、根拠となる事柄はないかを考えている。</p> <p>(努力を要する状況への方策)</p> <p>○具体的に考えられるように、自分の経験に当てはめてみるように助言する。</p> | <p>◇相手や目的を意識してセンテンス・カードを書いている。（センテンス・カードの分析）</p> <p>(十分満足とする状況)</p> <p>○相手や目的に応じて表現を考えたセンテンス・カードを書いている。</p> <p>(努力を要する状況への方策)</p> <p>○自分の力に応じた構想メモのプリントを選ぶように助言する。</p> <p>○課題の文章の中から、一番伝えたい主張を表す部分を見つけてみるように助言する。</p> | <p>◇設定した課題の相手や目的に応じて、文末表現や文の成分の照応を考えた文を作っている。（センテンス・カードの分析）</p> <p>(十分満足とする状況)</p> <p>○相手や目的に応じた文末表現や言葉の係り受けができた文を作っている。</p> <p>(努力を要する状況への方策)</p> <p>○文末表現や言葉遣いができるようにこれまで学習したことを教科書を使って振り返られるように支援する。</p> |
| 見直し1 | <p>□限定した文のつなげ方を考えることで、表現をつなげられるようになり、相手や目的に応じた説得力のある文章が書けるようになる。</p> <p>○センテンス・カードに書いた文と文をつなげて文章にする。</p> | 1 | <p>○文同士の並べ換えやつなげ方が分かりやすいように黒板で実演してみせる。</p> <p>○必要な場合には、文のつなげ方の例を示した資料を活用できるように用意しておく。</p> | <p>◇相手や目的によって表現を変える必要があることを意識して、文と文をつなげていこうとしている。（観察、自己評価カードの分析）</p> <p>(十分満足とする状況・態度)</p> <p>○相手の気持ちや考えを推測して、表現を工夫していこうとしている。</p> <p>(努力を要する状況への方策)</p> <p>○相手を説得したいという意欲をもてるように、設定した状況について、自分の問題に置き換えてみるように話す。</p> | <p>◇相手や目的に応じた表現の工夫を行って、文をつなげて文章にしている。（観察、ワークシートの分析）</p> <p>(十分満足とする状況)</p> <p>○工夫する表現について、その効果を考えて選びながら文章にしている。</p> <p>(努力を要する状況への方策)</p> <p>○T Tを活用し、個別の支援を行う。</p> <p>○文のつなげ方や書き方が分からないときは、具体的な例が書かれた資料を活用できるようにしておく。</p> | <p>◇相手や目的を意識しながら文と文の関係を考えて、文をつなげている。（観察、ワークシートの分析）</p> <p>(十分満足とする状況)</p> <p>○相手や目的に応じて、表現や文脈上の展開の仕方に違いがあることを意識しながら、文と文の関係を考えて文をつないでいる。</p> <p>(努力を要する状況への方策)</p> <p>○文と文や段落と段落の関係について自分で考えられるように参考となる資料を用意し、活用できるようにする。</p> |
| 見直し2 | <p>□作った文章を振り返って目当てによって、表現力を高める工夫が分かるようになり、説得力のある表現が付けられるようになる。</p> <p>○説得力のある文章を書くための目当てを作る。</p> | 1 | <p>○工夫した点が見付けやすくなるようにセンテンス・カードを作ったときのワークシートをコピーしておき、表現を直した後のものと比較できるようにする。</p> <p>○工夫した表現について話し合いがしやすいように、評価する観点をあらかじめ示しておく。</p> | <p>◇説得力のある文章にするためには、どんなことに注意すればよいか、代表者の文章で工夫した点から考えて目当てを作ろうとしている。（話し合いの観察、自己評価カードの分析）</p> <p>(十分満足とする状況・態度)</p> <p>○表現上の注意点と相手や目的を意識して自分が工夫した点から、目当てを作ろうとしている。</p> <p>(努力を要する状況への方策)</p> <p>○作った文章は、相手や目的が設定してあったので、今後説得力のある文章を書くときには、そのまま同じ書き方をしても通用しないことを話し、目当てを作る意義が納得できるようにする。</p> | <p>◇説得力のある文章にするための表現の工夫を整理し、自己の表現力を高める目当てを作っている。（観察、目当て、ワークシートの分析）</p> <p>(十分満足とする状況)</p> <p>○自分の表現の工夫点や課題を的確にとらえて、目当てを自分で考え、作り出している。</p> <p>(努力を要する状況への方策)</p> <p>○自分が作った文章を観点の項目ごとにチェックして、自己の表現の特徴が見付けられるように支援する。</p> <p>○いくつかの定型を示し、それをヒントに作れるようにする。</p> | <p>◇相手や目的に応じて表現や文章の展開に違いがあることを意識して、自分の目当てを作っている。（観察、目当て、ワークシートの分析）</p> <p>(十分満足とする状況)</p> <p>○相手や目的に応じて表現や文章の展開にどんな違いがあるか理解し、それを自分の目当てにいかしている。</p> <p>(努力を要する状況への方策)</p> <p>○自分が作った文章を観点の項目ごとにチェックして、相手や目的に応じて表現や文章の展開に違いがあることを理解できるように個別に支援する。</p> |

◇ は、おおむね満足する状況・態度

＜本時案＞

第1時

- (1) 本時で育てたい言語能力
表現を直したり、言葉や文を付け加えたりして、筋道の通った物語にすることができる能力
- (2) ねらい
文をつなげて物語を作ることで、センテンス・カードを使うと、筋道の通った文章をこれまでよりも容易に書けることに気付くようにする。
- (3) 準備
(教師) 絵本、絵本の各場面のコピー（7場面×8班）、センテンス・カード（2色の付箋）、資料①（物語の文の作り方）
ワークシート①（物語の編集用）、自己評価プリント、フラッシュカード
(生徒) 教科書、ノート、筆記用具
- (4) 展開（4時間中の1時間目）

| 学習活動 | 分 | 学習への支援 (○) 及び留意点 (※) 十分満足とする状況・態度の生徒への支援 (◇) | 評価項目(評価方法) |
|---|----|--|---|
| 1 本単元の学習の目当てを知る。 | 5 | ○説得力のある文章を書く力を身に付ける必要性を納得できるように、具体的な例を挙げて話をする。 | |
| 絵本の絵から作った文をもとに、物語を作ろう。 | | | |
| 2 班になって、順番をばらばらにした絵本の一場面から文を作り、それをつなげて一つの物語を作る。 ○絵を見て、そこに描かれていることを一つの文にし、センテンス・カードに記入する。 ○各自が書いた文を使って、一つの物語になるように順序を考え、場面をつなげる文や文と文のつなげ方について話し合っ、ワークシートに書き込んでいく。 | 25 | ○主述の関係や5W1Hを意識して作れるように、資料①を使って説明を行う。 ※5W1Hのすべてを無理に入れる必要がなく、主述の関係だけは、はっきりさせておくように話す。 ※表紙も分担に入れて、題名を考えるように話す。 ※あくまでも絵本に描かれていることを基に文を作ることを注意しておく。 ※文の中に会話を入れてもよいことを知らせる。 ○作った文を並べ換えながら物語を考えていけるように、センテンス・カードとなる付箋とワークシートを配布しておく。 ※班のほかの人の文との関連は気にしないで、自分が分担した一場面だけで考えて文を作るように話す。 ○後で挿入したことが分かるように、異なる色のセンテンス・カードに記入して、はれるようにする。 ※他の班と同じでなくても気にせず、自分たちで考えて、筋の通った一つの物語になっていればよいことを説明する。 ※話合いがそれてしまっている班には、目的をもう一度確認していくようにアドバイスする。 ※作った物語とそれぞれの絵がうまく合っているか確認するように指示する。 ※班全員で発表することをあらかじめ伝えておき、他の班の人にも分かるように表現を直したり、読みを練習しておくように話す。 | 【書く】 筋道が通るように表現を直したり、言葉や文を付け加えたりしている。(班での話合いの様子を観察、発表、ワークシート) 【言語事項】 主語と述語、修飾語と被修飾語の照応や接続語の働きを理解して文を作っている。(班での話合いの様子を観察、発表、ワークシート) |
| 3 各班で完成した文章を基に紙芝居の形式で発表し合う。 | 10 | ○筋道の通った文章になっているか、お互いの班の物語を表現から評価できるように、観点の書かれたワークシートを用意して活用できるようにする。 ※物語が長くなり、発表に時間がかかるようなら、8つの班を半分ずつに分けて行う。 ※ここまでの学習をふまえて、観点についての予想を聞いてみる。 | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p><観点> ○構成 ・話の展開が分かりやすくなっているか ・場面のつなげ方に無理がないか ○表現 ・言葉遣いがおかしくないか ・文と文が不自然でなくつながっているか</p> </div> | | | |
| 4 本時の学習を通して分かったことを振り返る。 ○学級全体で振り返る。 ○自己評価を行う。 ○次時からは、相手を説得できるような文章をつなげて文章を作っていくことを確認する。 | 10 | ○振り返りやすいように、発表時に使った評価の観点が書いてあるフラッシュカードを提示する。 ※筋道の通った文章にできたことに気付けない場合は、最初はそれぞれ関連がなかった文同士だったことを振り返ってみるように話す。 ○自己評価カードに記入することで、これまでと比較して文章を書くことに対する意識がどう変わったか、自分自身を振り返ることができるようにする。 ◇自分の文章を書く場合にどんな特徴があるか、考えてみるようにアドバイスする。 | 【関・意・態】 センテンス・カードを使って話をつなげていけば、筋道の通った文章にしていけることに気が付いている。(観察、発言、自己評価) |



班での活動の様子



紙芝居形式による発表

第2時（見通し1にかかわる授業）

- (1) 本時で育てたい言語能力
センテンス・カードに、課題にある相手や目的を意識した文を書くことができる能力
- (2) ねらい
条件を設定することによって、相手や目的を意識したセンテンス・カードを作ることができるようにする。
- (3) 準備
(教師) 資料②（課題）、資料③（構想メモのヒント）、ワークシート②（構想メモ、センテンス・カード貼付用）
センテンス・カード（2色の付箋）、自己評価プリント
(生徒) 教科書、ノート、筆記用具
- (4) 展開（4時間中の2時間目）

| 学習活動 | 分 | 学習への支援（○）及び留意点（※） 十分満足とする状況・態度の生徒への支援（◇） | 評価項目（評価方法） |
|---|---|---|------------|
| 1 前時の学習を振り返る。 | 3 | ○前時の学習で、文をつなげて物語を作ったことと、センテンス・カードを使うと修正や追加することが容易であったことを思い出せるように、作った物語のワークシートを見せる。 | |
| 2 文と文をつなげて説得力のある文章を作る課題に取り組む。 | | ※目的や相手をはっきりと意識してから取り組めるように、相手と目的について全体で確認する。 | |
| 説得力のある文章になるように、センテンス・カードを作ろう。 | | | |
| <p>○センテンス・カードを作る。</p>  <p style="text-align: center;">センテンス・カード作りの様子</p>  <p style="text-align: center;">TTによる支援</p> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「同じ部活動の友達の親に、友達が出場する部活動の大会の応援に来てもらうようお願いの手紙を書く。」</p> <p><課題> あなたは、同じ部活動のK君とは大の仲良しです。来週の日曜日に□□で新人戦が行われます。残念ながらあなたはケガをして出られません。しかし彼は、出場します。彼は、朝練を一度も休まず、厳しいトレーニングもさぼらずに取り組むなど、日ごろから頑張ってきました。彼自身もこの大会にかけています。また、あなたが部活をやめようか悩んだときも励ましてくれ、今も続けることができたのも彼のおかげです。そんな彼をあなたは応援したいと思っています。 しかし、彼がもらった言葉から推測すると、彼の家の人は、部活に熱が入りすぎていることをあまりよく思っていないようです。そこで、あなたは、彼の親に、今度の新人戦に彼の応援に来て、その頑張っている姿を見てほしいと考えました。そのために、彼の親に手紙を書いて説得することにしました。</p> </div> <p>○それぞれの子供が自分の力に応じて取り組めるように、構想メモの資料を複数用意して選択できるようにする。 ※安易に資料を見るのではなく、自分の力をつけるためにある程度の難しさを感じるように自分でよく考えて活用することを話す。</p> <p>○それぞれの文が段落の中でどのような役割なのかを分かりやすく書けるように、2色の付箋を配布して使い分けられるようにする。 ※自己の意見や主張はピンク色、根拠となる事柄は緑色の付箋に書くようにする。</p> <p>○課題から文を作れない子供に対応できるように、T1とT2は机間を回り支援を行う。 ◇センテンス・カードが書けた子供には、構成について考え、カードを並べ換えてみるように指示する。 ※センテンス・カードのはられたワークシートをなくさないように回収しておく。</p> | <p>【関・意・態】 課題に合ったセンテンス・カードに文を書こうとしている。 (観察、自己評価カードの分析)</p> <p>【書く】 相手や目的を意識してセンテンス・カードを書いている。(センテンス・カードの分析)</p> <p>【言語事項】 設定した課題の相手や目的に応じて、文末表現や文の成分の照応を考えた文を作っている。(センテンス・カードの分析)</p> | |
| 3 本時の学習を振り返る。 ○自己評価を行う。 ○次時の学習内容を知る。 | 7 | ○自己評価カードを記入することで、相手や目的を意識したセンテンス・カードを作ることができたかを振り返られるようにする。 ※次時からは、文のつなげ方を工夫して文章にしていけることを確認する。 | |

第3時（見通し1にかかわる授業）

- (1) 本時で育てたい言語能力
相手や目的に応じた表現の工夫を行って文をつなげ、文章にする能力
- (2) ねらい
限定した文のつなげ方を考えることで、表現を工夫して文をつなげられるようになり、相手や目的に応じた説得力のある文章が書けるようにする。
- (3) 準備
(教師) 資料④（文をつなげる条件や手順）、資料⑤（文のつなげ方の例）、センテンス・カード（2色の付箋）、ワークシート②（センテンス・カード貼付用）、自己評価プリント、掲示用センテンス・カード
(生徒) 教科書、ノート、筆記用具
- (4) 展開（4時間中の3時間目）

| 学習活動 | 分 | 学習への支援 (○) 及び留意点 (※) 十分満足とする状況・態度の生徒への支援 (◇) | 評価項目(評価方法) |
|--|----|---|---|
| 1 前時の学習を振り返る。 | 3 | ○前時にセンテンス・カードの文を作ったことを振り返られるように、自分のワークシートを見るように指示する。 ※前時に回収したワークシートは、あらかじめ返却しておく。 | |
| 2 センテンス・カードを使って文章を作る。 | 40 | ○条件や手順について分かりやすいように、資料④を使って説明をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 文と文のつなげ方を考えて、相手に納得してもらえるような文章にしよう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <条件> ○文と文をつなげる場合に、なるべく接続詞を使わない。 ○一文の長さが長すぎないようにする。 <手順> ①センテンスカードに書かれた文同士のつながりがはっきりしているところから、表現を直しながらつなげていく。 ②幾つかのまとまりができたなら、それぞれのつながりを考えながら、言葉や文を追加したり、変更したりしながらつないでいく。 ③最低限必要なところだけは接続詞を使ってつなげる。 ④全体を読み直して、修正を行う。(清書は行わない。) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ○文同士の並べ換えやつなげ方が分かるように、掲示用のセンテンス・カードを使って黒板でやって見せる。 ○さらに必要な場合には、文のつなげ方の例を示した資料⑤を持って行って活用できるようにする。 ※T1とT2で見て回り、個別に支援を行う。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <予想される子供のつまずきとその対応> ・接続語を使わないと文が繋がらない。 →文と文の関係を説明し、文のつなげ方をまとめた資料⑤を使って説明する。 順接なら省略でき、その他は、文末の表現や文の並べ方の工夫で理解できることをアドバイスする。 ・どう表現を変えたらいいのかわからない。 →相手意識から考える。相手がどのくらいの情報をもっているか(知っているか)を考えて言葉の追加や削除を行う。目的や場面意識から考える。 どのような場面か、この文書を書く目的は何かをもう一度振り返る。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ○作った文章を読み直す。 ※接続する語句を使わないと難しくなるが、それでも相手に伝えるようにするためには、どう表現を工夫したらいいかを考える練習であることを伝えて励ます。 ※完成したものを読み直し、より説得力のある文章にするためにはどうしたらよいか、目的や場面を確認させてから、もう一度考えるようにする。 ◇どんな点を工夫して文をつなげたのかを振り返り、表現の工夫点を整理できないか考えてみるように指示する。 ※完成したワークシートを、回収しておく。 </div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【関・意・態】 相手や目的によって表現を変える必要があることを意識して、文と文をつなげていこうとしている。(観察、自己評価カードの分析) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【書く】 相手や目的に応じた表現の工夫を行って、文をつなげて文章にしている。(観察、ワークシートの分析) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【言語事項】 相手や目的を意識しながら文と文の関係を考えて、文をつないでいる。(観察、ワークシートの分析) </div> |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ○センテンス・カードに書いた文と文をつなげる。  文をつなげて文章にする活動の様子 </div> | | | |
| 3 本時の学習を振り返る。 ○自己評価を行う。 ○次時の学習内容を知る。 | 7 | ○自己評価カードに記入することで、文と文のつなげるときにどんなことに注意したか、難しかった点やうまくできた点について振り返ることができるようにする。 ※記入がしづらい場合には、書き方の例を参考にするようアドバイスを行う。 ※次時には、作った文章の工夫点を見付け、文章を書くときの目当てを作ることを知らせる。 | |

第4時（見通し2にかかわる授業）

- (1) 本時で育てたい言語能力
説得力のある文章を書くための自分の目当てを文として書くことができる能力
- (2) ねらい
作った文章を振り返って目当てを作ることによって、表現力を高める工夫が分かるようになり、説得力のある表現ができる力を身に付けられるようにする。
- (3) 準備
(教師) 資料⑥（表現の工夫を整理する観点）、ワークシート③（目当て作り用）
自己評価プリント、
(生徒) 教科書、ノート、筆記用具
- (4) 展開（4時間中の4時間目）

| 学習活動 | 分 | 学習への支援 (○) 及び留意点 (※) 十分満足とする状況・態度の生徒への支援 (◇) | 評価項目(評価方法) |
|--|----|--|--|
| 1 本時の学習内容を知る | 3 | ○作った文章は、相手や目的が設定してあったので、今後説得力のある文章を書くときには、そのまま同じ書き方をしても通用しないことを具体例を挙げて話し、目当てを作る意義が納得できるようにする。 | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> 作った文章の工夫点を見付け、文章を書くときの目当てを作ろう。 </div> | | | |
| 2 表現の工夫を整理する観点を知る。 ○班での話し合い  <p style="text-align: center; font-size: small;">班での話し合いの様子</p> ○学級全体での確認 | 20 | ○自分の文章の工夫点を整理する観点をはっきり理解できるように、班で代表者の文章を全員で読み、工夫した表現について話し合うようにする。 ※班の編成は、多様な表現の工夫について情報交換できるように意図的に行う。 ○表現の工夫した点が見付けやすいように、直す前の文章をコピーしておき、比較できるようにする。 ※学習プリント（資料⑥）を活用して、観点ごとに表現の工夫が見付けられるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto;"> <p style="text-align: center; font-size: small;">＜表現の工夫を整理する観点＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○表現自体の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的を考えた言葉遣いになっている ・長い文は二つの文にしている ・余分な接続詞を使わないようにしている ・重なった表現のところは削除している ○相手や目的を意識した工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・より説得力が増すように主張の文を置く位置や数を工夫している ・相手に納得してもらえるように文の順序を変えている ・相手の考えや気持ちを意識して表現を変えている ・相手の考えや気持ちを意識して課題に書いてないことも書き加えている </div> | 【関・意・態】 説得力のある文章にするためには、どんなことに注意すればよいのか、お互いの文章で工夫した点から考えていこうとしている。 （班での話し合いでの観察、ワークシート、発表） 【言語事項】 相手や目的に応じて表現や文章の展開に違いがあることを理解している。 （班での話し合いでの観察、ワークシート、発表） |
| 3 説得力のある文章を書くための目当てを作る。 | 15 | ○学級全体で確認した観点を意識して目当てを作れるように、同じ観点の項目を使って自分の作った文章を評価することによって、自分の行った表現の工夫を振り返ることができるようにする。 ○目当ての文の作り方が分からない生徒のヒントになるように、ワークシートに見本となる文の型を載せておき、活用できるようにする。 ※目当ての内容については、自分が学習してきた中で気付いた点を具体的にに入れるようにする。 | 【書く】 説得力のある文章にするための表現の工夫を整理し、書くことに関する自分の目標を作っている。 （発表、ワークシート） |
| 4 自分の作った目当てを発表し、本単元の学習を振り返る。 ○班の中で発表し合う。 ○自己評価を行う。 | 12 | ○より具体的で実行可能な目当てとなるように、他の生徒の目当てを聞いて、追加や修正をしてもかまわないことを知らせる。 ※自主的に発表することをうながすとともに、参考となるような目当てを紹介できるように、あらかじめ確認しておく。 ※これまでの学習を振り返り、学習内容を今後文章を書くときにいかそうとする意識をもてるようにする。 | |